



それでも私の心は
思っている

さわぶ なかば

それでも

大学時代に付き合っていた彼がドイツ文学科でした。

文学少年というわけではなく、スポーツ系のクラブやサークルに入っているのでもない、どちらかというインドアで音楽を聴いたり映画を観たりするのが好きみたいで、部屋にはたくさんCDやDVDが整然と並んでいたのを覚えています。

「特にドイツ文学やりたいってわけじゃなかったんだ・・・」と、出会ってすぐの自己紹介的なノリでポツリとつぶやいたのが印象的でした。

今になって思い出すと、だけど。

卒業までの間に随分勉強したらしく、ドイツ語に堪能になって大学院へ進学しました。

大学二年（私と彼とは同じ学年）の夏、部屋に遊びに行ったときに本棚を何気なくながめていたら、この詩集を見つけて「これ、ちっちゃい本だね～、かわいい」と言ったのがきっかけでした。

「ああ、ヘッセ。気に入った？ ならあげるよ。」

「いいよ、いいよ。」

と断ったものの、あまりにも真剣に立ち読みしていたから結局、「家でゆっくり読みなよ」と鞆の中に放り込まれてしまいました。

この詩集は彼が選んだもの、彼がもっていたもの、彼が読んだであろう言葉として私の心を捉えたのかもしれない。

あの時は。

そして彼には、目の前にいる私との時間を他の何よりも優先したかったのです。

私も同じ気持ちだったに違いありません。

かなりの月日が二人の意識を隔ててしまいました。

それでも今では懐かしく、幸せだった青春時代を思い返すフワフワした喜びをかみしめています。

小さな本が大きな心象を呼び起こし、この詩集は永遠に私の宝物。

彼は私の手に渡ったことを、覚えているでしょうか。

片山敏彦・星野慎一＝訳と記されたヘルマン・ヘッセの60の詩。

『それでも私の心は思っている』

それでも

<http://p.booklog.jp/book/48525>

著者 : nakabasawabu

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/nakabasawabu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/48525>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/48525>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.